

平成29年度中学入試

[前期A入試]

国語科 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて16ページあります。

試験中に、印刷が見つらかったり、ページが乱れたり抜け落ちていることに気づいた場合は、手を上げて監督者に知らせなさい。
3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[前期A入試] 受験番号_____

金蘭千里中学校

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

主人公の大介は小学六年生で、隣家に住む老人佐藤北海に興味を抱いていた。夏休みのある日、両親とけんかをして家出を考えていた大介は、ちょうど旅に出ようとしている北海の後を追いかけて二人で旅をすることになった。本文は、旅の途中知り合ったトラック運転手の高村が、二人をトラックに乗せてくれた場面である。

高村はサービスエリアで（注1）ハイライトを（注2）一カートン買ってきていた。彼のたばこを吸うスピードは速かった。たばこを吸わないときは、ラジオと一緒に歌を口ずさんでいる。高村はいろんな歌を知っているようだ。

ハンドルを軽くさばきながら、彼は楽しそうに見えた。

楽しいのだろうか。大介は父の言葉を頭の中でA反芻して、考え込む。父の主張が正しいならば、高村は今こうしてトラックを運転しているaケンシヨウを、好ましいものではないと捉えていなくてはいけない。なのに、全然そういう感じではない。

ふうと吐いたたばこの煙が、窓の外の風にまぎれてたなびいていく。

「高村さん」

「おう、なんだ？」

「高村さんは、子供のころからトラックの運転手になりたかったの？」

「いや、特になんとも思ってたなあ」

「じゃあ、なんでなったの？」

大介の左横で北海が鼻から息を抜く。「そうだな、おまえはこの間も怒られていたもんなあ」

あの父のかみなりが、隣家の北海にも聞こえていたのだ。夏場で窓を開けていたせいだ。

高村が「大介が怒られたのと俺がトラック運転手しているのが、なんか関係あるのか？」と訊いた。

大介は口をつぐんだ。関係を説明するには、父がどんなことを言って怒ったのかを話さなければいけない。高村が聞けば気を悪くするだろう。

けれども高村は陽気に、「なんだよ、言えよ。おしえてくれよ」と大介をせっついた。

困った、どうすればいいだろう。

助けを求めるように左横に目を動かしても、北海は反応してくれない。しつこい高村に根負けして、大介は腹を決めた。

「僕の成績が悪いと、お父さんは怒るんだけど、怒り方がいつも同じで、言うことも一緒なんだ」

「親は怒るよなあ。俺も良くなかったから覚えがあるぜ。で？」

「こんなんじゃない、いい大学に行つていい会社に入れない。おまえは将来工場の作業員やトラック運転手になりたいのか、って」

ああ、やっぱり言わなければよかった。怒りにまかせて、高村の右足が急にアクセルをベタ踏みしたらどうしようか。運転が荒くなったら、きっと酔つてしまう。そればかりか事故になったら。大介はやっぱり何と言われても黙っておくべきだったと、激しく（ 1 ）しながらハンドルを握る右手を見た。

なのに高村は、まるで気にする様子もなく笑い飛ばしたのだった。

「そうか、大介の父ちゃんはそんなことを言うのか」

高村は短くなったハイライトを灰皿で潰し、片手でハンドルをソウサしながらもう一本に火をつけた。

「父ちゃん、なにしてんだ？」

なにしてんだは、この場合、仕事のことに違いない。大介は混乱から来る（ 2 ）を自らの意思で鎮めようと試みながら、父がこつとめる保険会社の名前を言った。

「おー、すげえでかい会社だなあ。そりゃあ周りからはいい会社につとめてるなって言われるし、給料もいっぱいもらえんだらう、俺よりは」

父の給料がどれくらいなのか、大介には見当もつかなかったが、少なくともはずだった。お小遣いやお年玉の額は、漏れ聞こえてくる級友たちのものより多かった。父も工場の作業員や運転手より聞こえが良く、稼いでいる自信があるから、侮蔑的なことも平気で口にするのだ。

改めてそんな父に（ 3 ）を覚えていたら、高村がハイライトの煙とともに言葉を吐き出した。

「でも俺は、こいつで走るんでいいなあ。もしよ、おまえの父ちゃんの会社に入れてくれるって言われても、断っちゃうな」
ラジオから流れてくる楽しい流行歌を、共に口ずさむように。

「性に合わねえってやつかな。小難しいことはわかんねえけどさ」

顎をしゃくるようにして、高村はフロントに置いてあるハイライトの一箱を示してみせた。

「大介、おまえ、このたばこ一つ、いくらするか知ってるか？」

大介は近所のたばこ屋の店先を、記憶の海から引き揚げる。あそこに値段は書いてあったか？ あるいは自動販売機の表示は、「百円くらい？」

「今年の四月に百五十円になったよ。三十円値上げしやがった」
「三十円なら大したことないね」

遠足のおやつを買うとき、きつちり上限の三百円まで使い切るには、ある種の工夫が必要だ。食べたいおやつだけでは、どうしてもちよ
うどにはならない。そんなとき、五円や十円の小さなチョコレートやキャンデー、ガムを見繕う。大介にとって三十円とは、メインのおや
つとおやつの間隙を、そういった駄菓子で埋める金額だ。

しかし高村は「大介は三十円稼いだことがあるか？」とにやりとした。

「二千円くらい入っていた財布を拾って届けて、半年後に僕のものになったことならある」

「拾うんじゃないよ、自分の体使って、汗水たらして三十円稼いだことはあるかって」
あるわけがない。小学生なのだ。

とはいえ、「小学生だからそんな経験はない」と言い返すのは、ためらわれるものがあつた。自ら「僕は子供です」と主張しているよ
うだからだ。

高村だつてそれをわかつて訊いている。その証拠に、口を閉ざした大介を見てさらに満面の笑みを浮かべ、ハイライトをいったん灰皿に
置くと、大きな手で帽子ごと大介の頭を乱暴に撫でた。

「じゃあよ、おまえちよつと仕事してみろ」

大介は目を見開いた。

「仕事？ なんの？」

助け舟が出ないかと北海に目で訴えるも、北海も先ほどの不機嫌そうな様子はどこへやら、高村と一緒にになってにやにやしている。

「俺、一応大介たちが座るところとかをよ、今日出発する前にきれいにしたんだ。でもすぐくびかびかかってわけじゃねえだろ。だからよ、
その物入れに布きれあるからよ、それで前のほうとか拭いてくれねえかな。あと、灰皿にも吸殻がたまってきたきているだろ。きちんと火が
消えて冷たくなってるか確認してから、ビニール袋にあけて、俺とじいさんが気持ちよく使えるようにしてくれねえかな」

言つたそばから高村は、吸っていたたばこを灰皿に押しつけて中身を増やした。

「じいさん、一本どうぞ」

少ししゃべりすぎたなあと照れくさそうにする高村の横顔を見つめながら、大介は彼が言った言葉すべてを頭に刻もうとした。この旅が終わって家に戻り、怒られる場面になって、父がまたあの決まり文句を投げかけてきたら、高村が言ったとおりのことを返してみたいと思った。

それに対する父の反応も知りたい、とも。

大介は手の中の三十円を、力を込めて握りしめた。手が臭くなるなんてことはどうでも良かった。

この世の中には大勢の人がいるんなことをしてお金を稼いでいる。仕事をしている。誰かに求められて、誰かの役に立っている。

いつもよりずっと早起きをして乗せてもらったこのトラックを、高村は「今日はゆっくりの出発さ」と言った。深夜から午前三時、四時のほうがトラックは多いと。普段なら大介はもちろんだ大介の父も、まだ眠っている時間だ。その時間に、トラックの運転手は働いていた。

働いているすべての人が、大介には手の届かない（X）に思えた。そして生まれてから今までの十二年間で一番身に染みて、自分は（Y）だとeツウカンした。

高村は次のサービスエリアに寄ってくれた。大介は売店で小さなチョコレートと餡玉あめたまを三十円分買った。それらは全部食べてしまったが、ホウソウ紙は捨てられなかった。大介はそれを大事に財布の中の一万円札と一緒にした。

（乾ルカ『花が咲くとき』一部改めたところがある）

（注1）ハイライト……タバコの名称。

（注2）一カートン……タバコを十個箱づめにしたものを。

(一) 波線部 a、e のカタカナを漢字に直しなさい。

a ゲンジョウ b ソウサ c ツトめる d ホウソウ e ツウカン

(二) 二重傍線部 A・B の意味としてもっとも適切なものを次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A 反芻 はんすう

ア 具体的に考えること

イ 批判的に考えること

ウ くり返し考えること

エ しつかり考えること

B 悪びれずに

ア まじめそうな様子で

イ 平然とした様子で

ウ はずかしそうな様子で

エ 落ち着かない様子で

(三) 傍線部 「大介は口をつぐんだ」とあるが、どうして「口をつぐんだ」のか、七十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

(四) (1) (3) にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

(同じものをくり返し使ってはいけない)

ア 動揺 どうよう イ 断念 ウ 執着 しつちやく エ 反発 オ 後悔 こうかい

(五) 傍線部 「じゃあよ、おまえちよつと仕事してみろ」とあるが、作業する「大介」に、「北海」と「高村」が協力してくれていることが分かる二文続きの表現がある。最初の五字を抜き出して答えなさい。(句読点を含む)

(六) 傍線部 「にやにやしている」とあるが、このときの「北海」の気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大介の反応が予想どおりだったのでうれしい気持ち。

イ 大介に仕事などできるはずがないとばかりにする気持ち。

ウ 大介が無事に仕事ができるようはげます気持ち。

エ 大介がどのようにこたえるかおもしろがる気持ち。

(七) 傍線部 「そういうもんだ」とあるが、「高村」は仕事をどのようなものだと言っているのか、三十字程度で答えなさい。(句読点を含む)

(八) (X) ・ (Y) には反対の意味の言葉が入る。その言葉を考えて、それぞれ漢字二字で答えなさい。

(九) 傍線部 「それを大事に財布の中の一万円札と一緒にした」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 三十円もらっても大した金額ではないと思っていたが、実際に買い物してみると価値があると実感し、高村のためにも大切にしなければならぬと思ったから。

イ 三十円もらっても最初は嬉しくはなかったが、仕事というものがどういうものなのかを教わったので、そのことを忘れないようにしようと思ったから。

ウ 三十円もらって嬉しかっただけでなく、仕事をしてやっと手に入れたものだから、父親に見せるためにも大切にとっておこうと思ったから。

エ 三十円もらって嬉しかったので、チョコレートと飴玉を買って食べたが、残った紙を簡単に捨てることはできないと思ったから。

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

20世紀は、科学とそれに基づく科学技術がひじょうに発達した時代でした。しかし、残念なことに、20世紀の後半は「とにかく産業（経済）を盛んにしよう」という考えが強くなり、産業に役立つ科学技術だけを素晴らしいものだと思ひ込んでしまったのです。知識を得るといふより、みんなが健康になるため、さらに産業を興してお金儲けをするため……そういうことのためだけに科学はあると捉えられたのです。科学に関する書籍やテレビ番組なども「こんなに役に立つ」「こんなに健康にいいことがある」という視点のものが多いいのです。

もちろんそれは大事なことで、全否定するつもりはありません。ただ人間の役に立つとか健康のためと考えると、どうしても「答え」が必要になります。「こうすれば健康に暮らせます」、「こうすれば経済活動を活発にできます」という答えを出すために科学があるのではないと私は考えています。

現実に行き起きていることには対応しなければなりません。でも答えを科学だけに求めるとどうしたらよいかわからなくなり、政府も自治体も X することになります。最先端の科学技術を持っているといわれる日本ですが、考えなければならぬことがありそうです。

このような現状を見ると、今まで欠けていたものが見えてきます。すべてのものには答えがあるから、それに沿って行動すればいいと私たちは思い込んでいましたが、そうではなかった。本来、科学とは「自然はどういうものなんだろう」「宇宙ってなんだろう」「地球とはいったいなにか」「生き物や人間はどうして生きているんだろう」ということを考えるもの。そうして考えていけば、科学は各自の世界観をつくつてくれるはずなのです。「考える」ことが重要なのです。答えはもちろん大事であり、考えて考えて考え抜けば答えは出てきます。しかし、一つの答えが出てくると、もつと難しくてもおもしろい問いが必ず生まれてくる。「答えを見つけたらオシマイ」ではなく、ずっと考えつづけること。これがとても大切なのです。

では、私たちはこれからどんな世界観を持てばいいのでしょうか。

過去を振り返ると、科学は17世紀以降の300年間にわたり「機械論的世界観」を有していました。簡単にいうと「宇宙や生命、人間をすべて機械と考へて調べればいいのだ」という世界観です。ガリレイは「自然は数字で書かれた書物」、ベーコンは「自然の操作的支配」、デカルトは「機械論的非人間化」、ニュートンは「粒子論的機械論」という言葉や考へ方を出しました。

たしかに、分子生物学でDNAやたんぱく質の働きを調べてみると、生物も機械のように動いていることがわかります。でも人間を含む生きものは機械かと問われれば、それは違います。しかし、a シュウライの科学技術を生み出すための答えを求めると、機械として考へた方が効率がよかつたのです。

生きものが生まれたのは38億年ほど前とされます。地球上には、名前が付いている生きものだけで170万種が生息しています。しかし、ほんとうは「ネットワイリン」を中心に数千万種いるはずと考えられています。まだ名前が付いていない、あるいは発見されていない生きものがたくさんいるからです。まだ不確かなことの多い生きものですが、一つだけはっきりわかっていることがあります。どこに棲んでいても、どんな姿かたちをしていても、生きものはみな細胞から成り、細胞のなかにはDNAが入っているということです。

ここから地球上にいるすべての生きもの「ソセン」は、ある一つの細胞と考えられます。地球で生まれた最初の生命体が現在の生きもの共通の「ソセン」なのです。今から38億年前の地球には細胞があったことは化石によって確認されています。

つまり、皆さんも含めて地球上の生きものは、体のなかに38億年の歴史を持っているのです。皆さんの細胞のなかにあるDNAは、父親と母親から半分ずつ受け継いでいますね。では、お父さん、お母さんを考えてみると、おじいさん、おばあさんから受け継いでいるはず。そうしてたどっていけば、誰もが「人類のソセン」に還るわけです。さらにDNAを解析していけば、人類のソセンからもっと遡ることができて、最終的には38億年前の最初の生命に戻ります。38億年という途方もない時間が自分の体内に残されているという事実を知ると、生きていることの重みを感じませんか。

時間をかけてできあがってきた自然界は生きもののようなのです。この考え方を「生命論的世界観」と言います。300年もの間、科学は「機械論的世界観」で進められてきましたが、どうも「生命論的世界観」の方が実態に合っていると考えられるようになってきたのです。「人間は生きものであり、自然の一部である」というあたりまえのことが「生命論的世界観」のいちばん大切な部分です。これからの科学は、「生命論的世界観」がベースになります。

機械と生きものの違いを考えてみます。機械は「構造と機能」がわかればOKです。しかし生きものはそうはいきません。たとえばアリの理解しようと思つたとき、アリのバラバラに分解しても本質はわかりません。そのアリはどのようにして今の姿になったのか。38億年の歴史とほかの生きものたちとの関係を読み解かない限り、ほんとうの意味でアリの理解したことにはならないのです。

もう一つ付け加えると、機械はどれも均一にすることが大事ですが、生きものはどれだけ多様になるかが大切です。追求することも違います。機械は「Y」を追い求めますが、生きものは「Z」を重視します。生活がどんなに便利で豊かでも、人類という種が途絶えてしまったら意味がありません。「つづく」ということの意味を考える必要があります。生活がどんなに便利で豊かでも、人類という種が途絶えてしまったら意味がありません。

38億年前に生まれた小さな脂肪からさまざまな生きものが生まれ、ときどき絶滅の危機に瀕したけれども乗り越えて、そうするうちに「霊長類」の仲間から二本足で立つちよつと変わった生きものが「dタンジヨウ」しました。人間は20世紀に大きなビルが建ち並び、その間を電車や自動車が走り、飛行機が空を飛び、コンピュータが至るところで使われる、そういう社会をつくってきました。人間が「eノウ」など独自

の能力を生かしたことはとても重要です。だからこそ、このような社会をつくることができたのですから。それを否定しませんが、でも人間は自然の一部であるということを忘れてはいけません。都市や先端技術といった文明社会だけでは、人間は生きられません。

今お話ししたような新しい世界観を支える言葉を最後に紹介します。「愛づる」です。この言葉は、平安時代後期の短編物語集『堤中納言物語』に収められている「虫愛づる姫君」という物語から「ハイシヤクしたものです。少し説明しましょう。」

およそ1000年前の京都に、ちよつと変わったお姫さまが暮らしていました。男の子たちに虫をたくさん集めさせたうえ、1匹ずつ名前をつけてかわいがっていたのです。お姫さまのいちばんのお気に入りは毛虫でした。「かわいい、かわいい」と大切にしていた。だから「虫愛づる姫君」なのです。両親はちよつと困っています。このお姫さまは（注1）裳着を済ませたりつばな成人（13歳くらい）なのですが、（注2）お齒黒や（注3）引眉といった当時の女性がしていたお化粧をまったくしないのです。両親が注意しても「人間はそのままの姿がいちばん美しいのだから」と相手にしません。あるとき、両親が毛虫をかわいがっているお姫さまに「そんなことばかりしていたらダメですよ」と注意します。しかしお姫さまはこう言いました。「みんなはチョウウになったらかわいいと言い、毛虫のときは気持ち悪いと言う。でも、チョウウになったらすぐに死んでしまうのだから、むしろ生きる本質は毛虫にあると思うのです」と。

「この姫君はすばらしい」と思うのです。日本文学のなかでは変人と言われていますが、生きものをよく見つめ、真剣に調べて、その本質をつかんだうえで自分の生き方を選択しているのです。これは現代に通じる世界観だと思っています。

1000年前からつづく、自然を大切に日本の文化を受け継ぎながら、コンピュータなど新しい技術を生んだ20世紀も踏まえたうえで、新しい技術や科学技術をつくっていくこと。21世紀はともチャレンジな時代です。私は このような新しい社会はできると思います。逆にできなければ、人間の未来はあまり明るくないでしょう。

自分の体のなかには38億年にもおよぶ生きものの歴史が入っているという事実。それをベースにものごとを考えていく「生命論的世界観」を持つこと。それを忘れないで、日常生活を過ごすようにして下さい。皆さんが進学してこれから何を学ぶのかはわかりません。しかし、21世紀という時代を生きていくための一つの考え方として、今日の話の隅に置いて下さったら嬉しく思います。

（中村桂子『科学は未来をひらく』一部改めたところがある）

（注1）裳着…主に平安時代、女子が成人して初めて裳（腰から下にまとった服）をつける儀式。

（注2）お齒黒…齒を黒く染めること。

（注3）引眉…眉毛を抜き、またはそったあとに眉ずみで眉をかくこと。

(一) 波線部 a f のカタカナを漢字に直しなさい。

a ジュウライ b ネットイウリン c ソセン d タンジョウ e ノウ f ハイシャク

(二) X に当てはまる四字熟語としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 創意工夫 イ 七転八起 ウ 右往左往 エ 有言実行 オ 付和雷同

(三) 傍線部 「このような現状を見ると、今まで欠けていたものが見えてきます」とあるが、「科学」に関するどういったことが見えてきたのか。それを次の文のように説明した。 には適切な言葉を考えて記し、 には本文からふさわしい表現を抜き出し、それぞれ指定された字数で答えなさい。(句読点を含む)

科学とは 十五字以内 のではなく、本来は、自然、宇宙、地球、生き物や人間について、 十字以内 ことが、大切だということが見えてきた。

(四) 傍線部 「私たちはこれからどんな世界観を持てばいいのでしょうか」とあるが、その答えとなる語句を七字で抜き出しなさい。

(五) 傍線部 「人類」とあるが、これを言い換えた言葉を十八字で抜き出しなさい。

(六) Y、 Z に当てはまる語句としてもっとも適切なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

<input type="text"/> Y	…ア	均一性	イ	機能性	ウ	利便性	エ	合理性
<input type="text"/> Z	…ア	継続性	イ	耐久性	ウ	歴史性	エ	多様性

(七) 傍線部 「このような新しい社会」の説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他の生きものにはない独自の能力を生かして築き上げた都市や先端技術を人類の財産とし、今後もよりよい文明を作るためにそれらの発展だけに挑戦していくような社会。

イ 便利な社会を実現するために発展しすぎた科学を一度否定し、今後は人間と生きものとの共存を第一に考えた方法で自然に貢献していくような社会。

ウ 人間は自然の一部であるという考え方を忘れず、今まで築き上げてきた文明社会で培った技術を、将来のためにさらに発展させていくような社会。

エ 自然と人間は根本的なところでは相入れないものであるが、それでも人間の使命として、できる限り自然を大切にすることを科学技術を使っていくような社会。

(八) 「虫愛づる姫君」について、筆者はなぜこの話を紹介しているのか。「虫愛づる姫君」は、「」に続く形で、六十字以内で答えなさい。(句読点を含む)

【問題は以上で終わりです】

①

(八)			(七)	(五)	(四)	(三)			(二)	(一)	
X					1				A	d	a
Y					2				B		
				(六)						e	b
(九)					3						
											c
											める

②

(八)			(六)	(五)	(四)	(三)		(二)	(一)	
			Y			II	I		d	a
			Z							
									e	b
			(七)						f	
										c

「虫愛づる姫君」は、

得点	
受験番号	

60点満点

(一) a 現状 b 操作 c 勤める d 包装 e 痛感

(二) A ウ B イ x 2 x 5

(三) 成績が悪いと将来工場の作業員かトラック運転手にしかなれないと言って父が怒ることを、
トラック運転手の高村が聞くときを悪くするかもしれないから。(七十字)

(四) 1 オ 2 ア 3 エ x 3

(五) トラックは

(六) エ

(七) どんなにつまらなく見えても、どこかで誰かの役に立っているもの。(三十一字)

(八) X 大人 Y 子供 (完答)

(九) イ

60点満点

(一) a 従来 b 熱帯雨林 c 祖先 d 誕生 e 脳 f 拝借 x 6

(二) ウ

(三) 答えを出すためだけにある(十二字)
ずっと考えつづける(九字)

(四) 生命論的世界観

(五) 二本足で立つちよっと変わった生きもの

(六) Y ウ Z ア x 2

(七) ウ

(八) 生きものをよく見つめ、真剣に調べて、その本質をつかんだうえで自分の生き方を選択しており、

これは現代に通じる世界観だから。(六十字)